

平成から令和へ、此度の改元を慶祝する特別記念企画として、5月1日午後3時より創業68年を誇る熊本市の老舗・鶴屋百貨店本館1階サテライトスタジオにて、書家の杭迫柏樹氏（1934年静岡県生まれ、日展名誉・

元号にいまの私の全てをかけ、新しい日本の未来と、お互いの多幸を信じつつ凛とした姿勢で颯爽と筆を執りたい」と語った杭迫氏。まさに言葉通りの魂のこもった鮮やかな運筆で新時代の幕開けを寿ぐこととなった。

令和初日となる5月1日、日展会員で現代書道二十人展のメンバーでもある尾崎蒼石氏の個展が中国西安の青龍寺において開幕した。これは西安市文化・旅游局の招きに応えたもので、併せて終南印社・千印齋印社、

そ
会
に
寺
学
和
幕
ら

■ 宙空のまなざし 大岡亜紀作品展が開催

詩人・画家の大岡亜紀（1963年東京都生まれ、武蔵野美術大学卒業）の展覧会が4月2日から7日まで池袋の栗原画廊で開催された。岩絵の具による抽象画はじめイラストや装画も手がける大岡は、今展ではこれまでにない「黒」の表現

に挑み、柔らかく且つ芯の強い世界観を展開。また会場には作家による詩の作品や、プロダクトデザイナーの伊藤稔氏と共作の立体作品も配され、画廊空間いっばいに優雅な小宇宙を形成していた。今後も大岡の幅広い活動に注目したい。

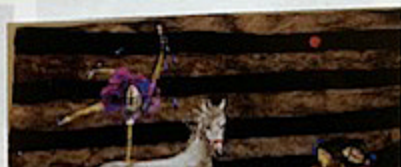


大岡亜紀氏

■ 小林裕児展「馬のいる」が神保町で開催

洋画家・小林裕児（1948年東京都生まれ、日本美術

から救い出された絹本など、多様な支持体の



令和元年6月1日 新美術新聞記事

Art Crossing

■ 「第75回記念 関西水彩画会 選抜展」開催

1932(昭和7)年、青野馬左衛門、池田鶴太郎、桂龍雄、別荘博實らによって創立された関西水彩画会は、3月に行われた大阪市美術館での展覧会を以て75回の日を記念した。

「新時代を切り拓く水彩画」として、その受賞者と特別に選抜された委員以上の同人45名(副委員長以上6名、常任委員17名、委員22名)による「第75回記念 関西水彩画会 選抜展」が、尾崎蒼石(館長・大正隆雄氏)の協力で4月20日(土)～5月26日(日)の日程で行われた。

上田素久選抜委員は今展開催に向けての挨拶文で「新しい時代へ向けて同人の皆さんも自分の個性に自信をもって情熱と夢のある

作品を発表しましょう。期待しています」と出品者への激励の言葉を述べた。

75回の区切りとともに平成から令和へまたがる記念展となった今展。出品者たちは新しい「関西水彩画会」の原動力を示そうと斬新なモチーフや作品の見せ方などを工夫し、緊張感のある中で、会場を大いに引きまわっていた。また各自の課題や強風などを積極的に克服しようとする意気込みが、作品を通じて顕著に表れていた。制作の喜びや不安を話し合うなど、有意義な機会だったという声が多く聞かれた。

4月20日の武蔵野美術大学、5月11日の田中健治氏によるギャラリートークなど、来場者との交流も行われ、会場は盛り上がる中、出品者たちによる



展示会場

熱気に包まれていた。来場した鑑賞者からは「ハンガリー精神、常に進化したいというチャレンジ精神が見られた」「驚きずりて熱しきらない清々とした魅力」「情緒のある絵が多く、感動した」「大層な中に繊細さもあるなど工夫がある作品が多かった」など、多くの感想が寄せられていた。

75年という長い歴史とともに、新時代を切り拓く水彩画の可能性を感じさせた関西水彩画会のことからも注目したい。



田中健治(馬)



上田素久(チュニジアの夜)



原素美(アハの休日)

■ 改元記念 書家・杭迫柏樹氏の席上揮毫 —新しい時代の元号に思いを込めて—



平成から令和へ、此度の改元を慶祝する特別記念企画として、5月1日午後3時より創業68年を誇る熊本市の老舗・鶴屋百貨店本館1階サテライトスタジオにて、書家の杭迫柏樹氏（1934年静岡県生まれ、日展名誉・

特別会員、日本書道院名譽顧問)の席上揮毫が催された。

多くの賓客が見守る中、杭迫氏が数十分の和紙に「令和」と揮毫すると、会場は大きな拍手に包まれた。揮毫前に新元号にいまの私の

■ 尾崎蒼石書畫篆刻特別展 中日和平安好條約締結四十周年



令和初日となる5月1日、日展会員で現代書道二十人展のメンバーでもある尾崎蒼石氏の個展が中国西安の青龍寺において開幕した。これは西安市文化・旅游局の招きに応えたもので、併せて終南印社・千印齋印社、

■ 宙空のまなざし 大岡亜紀作品展が開催

詩人・画家の大岡亜紀（1963年東京都生まれ、武蔵野美術大学卒業）の展覧会が4月2日から7日まで池袋の栗原画廊で開催された。岩絵の具による抽象画はじめイラストや装画も手がける大岡は、今展ではこれまでにない「黒」の表現

に挑み、柔らかく且つ芯の強い世界観を展開。また会場には作家による詩の作品や、プロダクトデザイナーの伊藤稔氏と共作の立体作品も配され、画廊空間いっばいに優雅な小宇宙を形成していた。今後も大岡の幅広い活動に注目したい。



大岡亜紀氏

■ 小林裕児展「馬のいる」が神保町で開催

洋画家・小林裕児（1948年東京都生まれ、日本美術家連盟委員、書道会会員）の展覧会が5月8日から18日まで、神保町で開催された。今展では馬を主題に150号超の大尺画約20点を展示。故郷や故国をはじめ、インドネシアの木村や津波

から救い出された絹本など、多様な支持体の上を馬たちが躍動と駆け巡る。大画面に描く油彩作品とは趣を異にしたがらぬ、小林ならではのドラマチックな物語が会場全体に展開し観る者を楽しませた。



【馬のいる】90×130cm マンベックのタスクロス/アクリック

集
12
場
国
展